

講演会「猪苗代湖掘削の意義と気候・環境変動」の報告

磐梯朝日遷移プロジェクトの今年度の目玉事業の一つであります猪苗代湖掘削について、学内教職員向けの講演会「猪苗代湖掘削の意義と気候・環境変動」が2012年12月21日（金）に福島大学共通講義棟 M21 教室にて開催されました。学内の教職員・学生、学外の研究者の方など合わせて約40名が参加されました。

最初に長橋先生からプロジェクトの紹介を含む講演「磐梯朝日遷移プロジェクトにおける猪苗代湖湖底堆積物掘削の意義」があり、続いて信州大学の公文富士夫先生による「湖沼堆積物研究の重要性：グローバルな古気候変動の視点から」、廣瀬特任助教による「猪苗代湖湖底堆積物の岩相層序とその特徴」が講演されました。約30年前に実施された福島大学特定研究「猪苗代湖の自然」で猪苗代湖の形成史や湖沼を含む古環境の変遷史の解明にご尽力された真鍋先生（福島大学名誉教授）や中馬先生（福島大学大学院共生システム理工学研究科実践教育推進センター特任教授）も講演会に参加され、お二人からは猪苗代湖湖底堆積物掘削とその成果に対する大きな期待のお言葉を頂きました。



長橋先生による講演「磐梯朝日遷移プロジェクトにおける猪苗代湖湖底堆積物掘削の意義」（左）と公文先生（信州大学）による講演「湖底堆積物研究の重要性：グローバルな古気候変動の視点から」（右）



廣瀬さんによる講演「猪苗代湖湖底堆積物の岩相層序とその特徴」（左）と参加した聴衆の皆さん（右）。職員や学生も熱心に講演を聴いてくださいました。



聴衆の皆さん（左）と約 30 年前に猪苗代湖研究に携わられた真鍋健一先生（福島大学名誉教授）。今回の猪苗代湖湖底堆積物掘削から得られる成果に対する大きな期待のお言葉を頂きました。